1965
1月号
No.134
編集兼発行
鮫川村役場
鮫川村公民館
塙町 佐藤印刷所

広報 さめがわ

1月の人口と世帯
人口 7.724(+2)
男 3.822(−1)
女 3.902(+3)
世帯数1.234(0)

老朽化した公民館
改築促進を答申

ここ十数年らい県下各地で町村合併が進み新しい公民館が建築されつつあります。

本村では大正二年に当時としては県下でも珍しい柱のない建物として、公会堂が建築され村民集会の場として利用されてきました。

戦後の二十五年に青年会員の強い要望で改造が加えられ公民館として青年婦人の学習の場、また村民集会の場として利用されていますが、古い建物なので室数も少なく室内は暗く昼も電灯をつける状態それに冬は寒くフルエながら学習したり、会議を開いたりの現状に加えて、老朽化が甚だしいので青年婦人会などから早期改築が要望されていました。

四十年度に改築を要望

村教育委員会ではこれらの要望にそって去る十二月十八日に役場会議室で、教育委員社教委員、公民館運審委員の合同会議を開き、公民館改築についての意見を諮りました。

この会では各委員とも早期改築に異議はなかつたが、敷地や建物の規模、建築費などについて意見があり、石田村長より公民館の改築には一千万円ていどの予算が必要である特定財源として考えられるのは国庫補助金百万円、起債百五十万円位で、あとは自主財源によらなければならないから本村のように財政規模も小さく財源の乏しい村では、一般からの協力も考えるべきであろう。農作物が不作の現在では、早期改築は無理と思われるが、村民の盛り上る意欲と財政協力を得て四十一年度頃までには改築したいと考えている。

との説明があつたが各委員より財政協力を伴つても早期に改築されたいとの強い要望があり、その旨答申されました。



村主催の新年祝賀会で賀詞を交換する新しい慣習もだんだん育つていく。春雨けぶる今年の元旦も多数の参会者があり盛会であつた。

新築公民館を視察

十二月二十二日に議会議員(各委員長)教委、社教委、公民館運審委の全委員と青年婦人会役員五十名がバス一台を貸切つて、本宮町公民館(三十七年建築)大東村公民館(三十七年建築)古殿町公民館(三十八年)の三館を視察し、本村にふさわしい公民館の改築を研究してゆくための参考にしました。

給食センター
設置を協議

西野、西山小の完全給食実施につづいて、第二次事業として鮫川小、富田小、渡瀬小の各校にも実施するため、一月二十一日に役場会議室に三校の代表と関係区長が集り、村長教育長をかこんで実施方法について協議しました。

当局案の四十年度中に共同設置で、センターを設けることには全員が賛成で施設費約六五〇万円は国庫補助と起債村負担で大部分をまかない、補助対象以外の基準を超える施設のうち洗濯機、熱風消毒機など七十五万円ていどを三学区で負担することが話し合われました。

準備の資料を得るため、一月二十六日に三学区代表者五十名が浜通り方面の先進校を視察することになりました。



成人式のよそおいは年毎にきらびやかになると心配する向もあるが、若い人たちが高い教養と知性を身につけていく姿はたのもしい。

村営東野牧野開設工事初まる

村営渡瀬牧野は鹿角平に設置され、草地造成も一部の湿地帯を除いて完成したので、昨年から乳牛和牛の委託放牧が行われ、村の畜産振興に重要な役割を果しています。

こんどは農業構造改善事業のひとつの拠点として、村営東野牧野がつくられることになりました。場所は唐露部落の後に当る国有林三〇町歩と東野牧野組合の既設牧野三五町歩を合せ六五町歩が充てられます。

ここでは和牛の放牧が主なる目的とされ、開墾による草地造成は行われず、踏耕によるごく簡易な草生改良が行われる新しい方式で開発されます。

村では国有林の伐採を待つて、隔障物四〇二六M、監視舎一棟、給水給塩施設四基の設置に着手します。

～選挙人名簿の縦覧～

昭和三十九年十二月一日現在により調製した、鮫川村農業委員会委員選挙人名簿を、一月二十日より二月三日までの十五日間、毎日午前八時三十分より午後五時まで、鮫川村役場において関係人の縦覧に供します。

(選挙管理委員会)

今年の入学者

昭和40年度入学者名簿



四月五日に村内の各小学校に入学されるお子さん方をお知らせします。

この名簿は十二月一日現在で住民登録票により調査したものです。もし名前が違っていたり洩れている方がありましたら教育委員会事務局（船木久子）に連絡して下さい。

カッコ内は保護者名です。

青生野小学校

大森　広美（勝治）
管野　広伸（憲）
大森　良雄（愛保）
星　弘美（弘）
星　英俊（俊一）
岡部　保良（文雄）
大竹　伸克（光寿）
平久井和男（三郎）
堀川　亀喜（信正）
長久保誠一（一進）
笹島　愛子（正見）
藤田スエ子（勘次郎）

渡瀬小学校

中島　淑恵（唯男）
笹島　文子（金四郎）
金沢　百代（信雄）
土手内恵子（万吉）
鈴木　キミ（清司）
堀川　初美（信正）
石塚　友恵（キクイ）
瀬谷　春美（政義）
金田　久子（七五三明）
河野　弘美（弘）
松本　丁二（幸典）
小宅　新一（芳昭）
下重　忠勝（清）
国井　和男（鬼子治）
遠藤　幹一（幹雄）
蛭田　茂（藤留）
小松　義人（幸次）
下重　茂（兼市）
下重　三男（金治）
小松　弥生（サカイ）
山形スミ子（正義）

富田小学校

芳賀　則子（半次）
藤田　光江（一義）
蛭田　里美（久男）
蛭田　孝子（安雄）
渡辺　操（作太郎）
穂積　信次（一男）
船木　一（正衛）
根本　忠夫（七郎）
小川皇修朗（久之）
赤坂　忠（秀雄）
船木　常良（操）
渡辺　光男（寿）
生田目三喜男（富夫）
松本　正司（太一）
松本　武（栄一）
坂本　悟（春光）
松本てるこ（克己）
中川西文子（清作）
鈴木八重子（作栄）
小山田まれ子（清哲）
青戸　厚子（学男）

西野小学校

北条　光男（忠一）
須藤久米夫（照司）
高坂　郁夫（尹）
霜田　昭光（ヨシ）
白坂　幸雄（利昭）
石井　豊（久）
舟木　仁一（誠也）
北条　幸男（久弥）
関根　勲（良夫）
鈴木　啓寿（啓仁）
藤田　孝夫（一夫）
石井　正美（好美）
高坂久美子（久男）
北条　孝子（平）
石井智江子（一郎）
須藤　文江（啓）
霜田さち江（芳美）
緑川とよ子（多気志）
増子　智子（義兄）
石井　文子（清市郎）
石井　貴子（ハツヨ）

西山小学校

矢吹美紀子（友春）
石井三代子（福一）
白坂　好子（政信）
鈴木美智子（春吉）
北条美智子（恵三）
須藤　洋子（忠）
舟木　郁子（忠男）
高坂　友子（純二）
須藤　慶子（勇）
白坂　幸弥（清美）
石井　義徳（勝男）
関根　三郎（昭八）
関根　安芳（乙夫）
関根　宏康（正照）
水戸　隆（啓）
関根　弘慈（昭二）
松本　敏雄（定雄）
三瓶　輝男（武男）
阿久津泰久（政一）
根本　栄次（栄市郎）
関根　明（経男）
渡部　高男（吉男）
花田　一夫（岩蔵）
芳賀　一男（一兄）
関根　靖（長一郎）
阿久津　博（忠男）
関根　武（市郎）
関根　和男（保夫）
水野　雅男（儀助）
緑川　邦明（武男）
関根　茂子（仁市）
水野　信子（誠）
小林　福子（ヨシ子）
水野　富子（照雄）
水野富士子（弘幸）
生田目洋子（芳）
坂本富美子（由男）
関根　芳子（源治）
関根マリ子（三夫）
根本　豊子（伝）
関根喜世子（勲）

鮫川小学校

水野ノリ子（ユキ）
関根智恵子（久翁）
松崎つや子（清次）
生田目まさ子（正次）
阿久津恵子（作次）
関根　李子（正治）
阿久津悦子（一一）
関根美紀子（清）
水野　栄子（吉三郎）
関根ミキ子（広美）
南条　孝（仁孝）
蛭田　忠（長次）
斉藤　郁男（正光）
中川西保志（竹也）
中川西　豊（栄枝）
矢吹　孝夫（義郎）
高坂　巧（昭）
湯座　孝志（虎雄）
佐藤　光洋（保己）
芳賀　芳重（未男）
石原　広義（正人）
前田　勝之（勝男）
国井　正男（勝夫）
中川西　清（茂）
阿久津　正（正生）
鈴木　信（秀安）
矢吹　一男（友一）
酒井　国安（国光）
鏑木　重正（長吉）
矢吹　勝則（正）
中川西宏幸（寅夫）
佐藤　幸彦（幸一）
矢吹　一二（繁）
高木　良喜（定典）
宗田　詩子（悦次）
板橋さつき（源良）
鈴木美代子（公義）
味原ヤス子（伊助）
舟木しづ子（国児）
中川西富子（富士雄）

〈三面へつづく〉

成年期に入る新生日本

村長　石田　卯子八



今年は戦後日本が二十才の成年期に入るわけで、感慨のひとしお深いものがあります。

占領政策の行われていた頃マッカーサーが、日本人の政治感覚を十二才以下と評したことなど思い出され、何か苦笑させられるのを禁じえません。

成年の特質には、合理性、正義感、自主性、情熱、体力の充実などがありましようがそのひとつひとつが、これからの日本の前進のために、力強く湧き起つてくるのを期待したいものです。

地方自治は法制定が昭和二十二年ですから、町村制の穀から脱して足かけ十九年、既に大人になる年頃になりました。虚脱、混迷、窮乏のどん底から、新憲法によつて方向づけられ、地方自治法によつて体系づけられた市町村が、今日まで歩んだ道は、まさに多難という語にふさわしい変遷といえましよう。

終戦処理と新制中学の建設に、ほとんどの精力をつぎこんだ時期の村の年間予算は凡そ四、五百万乃至六百万円程度であつたが、貨幣価値の相違があるにしても、現在一億円をこえる予算規模と、多面的に行われている建設、福祉事業の現況を思い合せると、今昔の感にたえねものがあります。

町村合併の行われなかつたわが村は、それだけに平穏でもありましたが、その反面には刺激に欠け、積極進取の建設と異質消化の試煉に乏しいものがあつたことは認めざるを得ないわけですが、そうした環境の中にありながら、なお現在の時点に到達し得た村民皆様の御努力と御精進には深く敬意を表するものであります。

新しい年には、これらの実績の上に、更に新しい努力を傾けて、地域開発と住民福祉の向上につとめていきたいと思います。

霜害と長雨になやまされた昨年にかわり、昭和四十年は大自然の恵み豊かに、成年期日本の前進に好き環境の年でありますようお祈りいたしましよう。

☆　☆　☆

議会だより

◉第十二回議会
昭和三十九年の最終議会に当る第十二回鮫川村議会定例会が去る十二月二十三日に招集されました付議事件とその結果

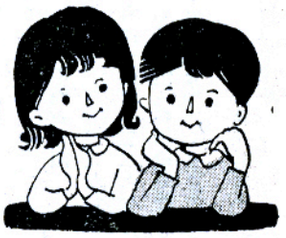
1　会議録署名議員の指名（八番藤田、九番湯坐議員）
2　会期の決定（一日間）
3　報告事項
(1)　例月出納検査結果報告（十一月・十二月分）
(2)　請願、陳情についての報告
去る十二月十二日と十四日に、村と議会により鮫川村～石川町間町村道の県道編入請願、及び県道渡瀬～黒田線の公共事業の拡大の件、県道中野地内舗装工事の延長の件、大石草～姿平間林道開設、救農土木事業実施に関する件、農村公衆電話設置に関する件を陳情。
4　請願第四号の継続審査について。
5　請願第六号、戸草分校改築に関する請願。
戸草部落代表三瓶正司外四名より、戸草分校改築に関する請願が提出されたので、これを受理し、本会議に諮つた結果採択することに決定したので、採操請願書を鮫川村教育委員会に送付しました。
6　一般質問
村政一般についての質問事項は次のとおり（紙面の都合で質問及び答弁の内容を省略します）
一、山形操議員
①　村道整備事業について
（鹿野角～世々来方部）
②　村営建造物新築工事監督強化について。
③　長雨による農作物の被害減収による、農家所得の施策について。
二、蛭田正議員
①　診療所施設の整備拡充について。
三、金沢甲子雄議員
①　県道、村道危険個所改修対策について。
②　学校給食の請願を採択し送付してあるがその後の状況について。
③　各種委員会の委員、消防団員等の報酬及び出場手当等を増額する考えがあるか。
7　村長提出議案第六七号
昭和三十九年度鮫川村一般会計補正予算（原案可決）
8　村長提出議案第六八号
職員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例（原案可決）
9　村長提出議案第六十九号
鮫川村特別職、報酬等審議会条例の制定について（原案可決）
10　議員提出議案第一号、引揚者の在外私有財産国家補償について（意見書を原案どおり可決し、内閣総理大臣及び関係機関に意見書を提出しました）
（議会事務局）

農業センサス

十年に一度「世界農業センサス」が行なわれますが、今年はその中間年次にあたり、「一九六五年中間農業センサス」が二月一日現在により行なわれます。
これは、日本農業の実態を明らかにするとともに、わが国の農業諸施策および農業に関して行う諸統計調査に必要な基礎資料を整備することを目的とする国の重要な調査であります。
経営耕地面積が一反歩以上の農家と、調査期日前過去一年間における農業生産物の総販売額が三万円以上の全農家について調査されるもので、鮫川村は、二十九の調査区に分けられ、農林大臣より任命された調査員が、それぞれ担当の調査区内の農家を訪問し調査にあたります。
又、毎年行なわれている「福島県農業基本調査」も併せて実施されます。これは五畝歩以上の経営耕地面積を持つ農家が対象となります。
本調査の目的等ご理解のうえ、農家の皆さんのご協力をお願いします。（庶務課）

火の用心

◉こたつによる火災の予防について
1　火を入れすぎないこと。
2　火の持ち運びに注意し、こわれた容器は使わないこと。
3　ふとんの内側が破れていると、布や綿が火に触れたり炭の上に落ちて発火することがある。
4　老人、病人、子供をこたつの中に寝かせて外出しないこと。



〈二面より〉

戸草分校
本郷　喜次（広美）
三瓶　格吉（芳賀茂男）
鈴木　和雄（秋男）
矢内　春義（清）
芳賀　金男（芳弥）
関根　直己（初吉）
荒川　恵治（忠）
矢吹　春美（春治）
三瓶　高弘（寛）
柿沼　幸夫（源二）
岡部　和幸（和）
溝井　一雄（信雄）
根本　光一（三郎）
三瓶　茂（美好）
生田目芳枝（雅弘）
三瓶　禎子（錦）
高木美代子（勝美）
金沢　優子（正男）
渡辺りつ子（春治）
吉田　栄子（春男）
金沢やす子（利雄）
田子　和子（条弥）
高坂恵美子（卯平）
橋本　宣子（次男）
生田目元子（喜昭）
円井　明子（操）
金沢しのぶ（関正）
五十嵐静代（大一）
芳賀キイ子（方治）
矢内　弘子（安喜）
藤田かつ江（和昭）
関根江美子（寅松）
芳賀　静子（重良）
矢吹富美子（一）
根本ヤイ子（辰之助）

東野分校
森　健弘（静）
有賀　広行（岩男）
芳賀　金一（市之助）
芳賀　正孝（幸男）
森　仁一（保）
吉田　章（忠男）
金沢久美子（弟助）
佐藤三智子（光治）
佐久間みさ子（兼江）
鈴木三代子（長一）



西山の中心から赤坂中野新宿までバスを運行しようと、昨年来道路の改修、橋梁のかけかえなどを行い、立派な道路になつたので、このほどバスの試運転が行われました。

お子さんの入学と家庭（おかあさん）の心得

これだけはぜひいまからお子さんの身につけておきたいものです。

一、明るい生活は健康から
・アデノイド扁桃腺はお医者様とよく相談し、伝染性の皮膚病、慢性化している病気は必ず処理しておきましよう。（虫歯、寄生虫、トラホーム等は特に）

二、明るくのびのびした心はふだんの健康な規則正しい生活から生まれます。身のまわりの清潔、体の健康には特に気をくばつてください。
・食事をじようずにすることは、社会生活の基礎となるしつけの一つです。
食事前に手を洗い、だされたたべ物は好ききらいせずなんでも食べ、こぼしたりちらかしたりしないようにしましよう。
・自分のことは自分でする。
用便の時、着物の始末、遊び道具の整理、はきもののぬぎはき、洗面、歯みがきなど。
・ものをたいせつにする。自分のものと、他人のものの区別をつけ、他人から借りたものはかえす習慣をつくり、ていねいなあつかい方や、正しい使い方を分るようにし、持ちものには全部はつきりと名前をかいて下さい。
・交通のきまりと、安全通学道路の横断のしかた、右側通行など、実際に機会あるごとに学校までの道順にそつて教えて下さい。
・なかよく遊べる
お子さんの社会性やものの考え方は、友だちと遊ぶことによつて成長します。誰とでも仲よく遊べるように導きましよう。

三、勉強は、どのくらいできるようにしていけばよいでしようか。
・手先のけいこをする。
鉛筆を正しく持つ又、ハサミ、クレヨンなども使いなれておく、自由にのびのびと楽しみながら遊ばせることで、むりにまとまつた作品などは要求しないで下さい。
・物を一から十まで数え、実際の数がわかる。
・名前はひらがなで縦がき、横がきとも読み、書きできる。
・八色位までの色の名前もわかる。
・父母の名前、住所がいえる
・他人の話を、しずかに聞く態度をつくる。
・ことばは、はつきりと「はい」の返事ができ、正しいことばを使つて話す、何でもかくさず話す、特に自分の考えを話すことができるようふだんから話し合う機会をもち、すらすら話せるようにすることが大切です。

（鮫川小学校）

告知版

婦人会の慰問

村婦人会では一戸当り十円の寄付金をお願いしていたが全村で七、七五五円の現金が集ったので、このほど役員が三班に分れて塙町母子寮、棚倉町母子寮、愛生園、石川町桜ヶ岡学院を慰問しました。

耕転機の運転免許

昨年実施して好評だった講習会を本年も村公民館と婦人会の共催で、次の日程で開きますから受講希望者は公民館事務局（鈴木）に申しこんで下さい。

記

一、期日…二月十一、十二、十三日の三日間
二、場所…鮫川村公民館
三、講師…棚倉警察署中野駐在所、佐藤保己先生
四、試験日…二月二十日ごろ
五、受験料…手数料、写真代等で二二〇円
受講料は頂きません。

西山小に砂場

このほど追木方部のPTA会員が協力して学校東南部の鉄棒下に、長さ五米、巾二・五米の砂場（砂代五、五〇〇円）ができあがりました。

学校では区とPTAの協力に感謝しています。

老人クラブで ぞうきん寄贈

西山女子クラブ（代表市川アイさん）のおばあさん方は一人五枚づつもちよつて二百枚を西山小学校に寄贈しました。このおばあさんたちの真心は子供たちにも伝わり清潔な環境がつくられてゆくことでしょう。

おとし物

成人式の日に高校分校の廊下に皮手袋（バイク用）が落ちていましたので公民館に保管しています落し主は連絡下さい。



村の消防団はポンプ自動車二台、可搬式ガソリンポンプ二〇台となり、出初式にはその装備を点検、優良団員を表彰しました。

村の財政

④給与改定と財源

去る八月十二日行なわれた人事院の給与勧告については新聞、テレビ等で皆様の関心も相当高いものと思いますが、その内容についても御理解をいただきたいと思います。

政府は給与改定に必要な財源難のため相当期間検討した結果三十九年九月一日から国家公務員について勧告どおり適用されたのです。

一方地方公務員についても人事院勧告の趣旨に沿つて改定することになり、九月一日から実施した場合の財源は自治省の調べによるとおよそ六〇〇億円というぼう大な数字になり、もちろん県とか市町村において年度なかばにしてこのような一般財源の余裕がないのは当然であります。

国ではこの改定に要する経費に充当するため「昭和三十九年度分の地方交付税の特例等に関する法律」により地方交付税を交付することになりました。

村においては十二月定例村議会で給与に関する条例の一部改正条例が制定され、改正内容等については県の指導のもとに国家公務員に準じて九月一日にさかのぼり適用されることになつたわけです。

定例会の当時においては交付税が未定のため予算補正（旧法の追加更正予算）は出来なかつたが、一月に入り県より概算分として七八八千円の交付を受けたので一月臨時議会において補正されました。

改定財源の交付税の額については未だ決定はしていないが、およそ一五〇万円位と推定されます。

改定の実質増分は、給料六五五千円、諸手当等五九〇千円、計一、二四五千円となり交付税によりまに合うと思われます。

ここ数年給与改定が度々行なわれてきたが民間企業においてはどんどん上昇するし、物価の方は一足お先へ失礼ということでなかなかバランスがとれないことになつているようです。

公務員としてはこの改定を機になお一そう住民に対してサービスと能率向上に努力する必要があります。

一般会計予算の規模も補正で一億円を越す村始まつて以来の予算となりこのうち人件費の示める割合が二二・四％という数字がでています。

昨年の給与改定と本年改定のアップ、平均給与は次のとおりです。

38・10・1改定
アップ率　九・九六六％
一人当平均給与額
一八、三〇三円

39・9・1改定
アップ率　九・七三九％
一人当平均給与額
二〇、九九七円

右は一般職員三六人を基礎として算定（特別職臨時職員等は含まない）しました。

（庶務課財政係長）

納税だより

納税については、皆様の御理解と御協力によりまして、いつもよい成績をおさめておりますことを厚く御礼申上げます。

村では村税を自主的に完納していただくため、十二月中に村税完納運動を実施しましたところ好成績で完納されております。

住民福祉の向上は、村が健全財政でないとできません。その根幹をなすものは村税であり、納期内税収の確保であります。

村では前年に引続き全村完全納税を目標に努力中でございますので、まだ完納されてない方はこの点御賢察の上早急に完納下さるようお願いします。

年の初めに皆様の御多幸と御健康をお祈り申上げますと共に、本年も納期内完納に御協力下さるようお願い申上げます。

税務課一同

国保だより

医療費の値あがり

医療費の値あげは昨年はついに実現しなかつたにもかかわらず、知らないうちに全国で何と三〇％近い医療費が増しております。

医療費があがれば、皆さんが病院等に支払う金額がふえるだけでなく、やがて保険額もふえてくることになり、国や村の負担分も増大してきます。かりに盲腸の手術をする場合ベテランの医者は患部を小さく切つて盲腸をとり、きれいにとじるから治るのも早いが、下手の場合は切り口を大きく開き、化膿させたりするとガーゼ代や、薬代がかさみ、入院料を加えて数倍も高くなります。

このようなことを「まわり道医療」といつておりますがそのような医療はあなた自身が被害者であり、保険者である村も被害者になりますからお互に注意しましょう。

病気は予防が第一で、もし病気になつたら軽いうちに良医にかかつて早く治すことが肝じんです。

（住民課）

村民室

町を明るく

新宿地内は道路の舗装も進み立派になつてきましたが、街灯が少ないため夜間の歩行に非常に不便を感じますときには川に落ちる人もあり危険でもあります。

せつかく舗装されてもこれでは困ります。なんとか街灯を増して明るくすることはできないものでしょうか。

とくに高校前から農協までのあいだと、裏通りになりますが小松さんのところの橋あたりが真暗です。（新宿生）

おわび

先月号は年末にかかつたため校正が完全でなくミスプリントが多く、とくに号数と日付（一三三号、十二月十五日）をあやまりました。

なお年末年始の事業がかさなり編集にかかれず、一月号の発行が非常におくれたことをおわびします。二月号からは遂次おくれをとりもどす予定ですので御諒承下さい。

あとがき

◇年末から年始にかけて気ぜわしい日を送り一月号の発行がだいぶ遅れました。今になつては新年おめでとうございます、のあいさつもマがぬけたものになりますので省略させて頂きます。

◇本号から紙面を変えて新鮮味をだそうとしましたが、思うにまかせず、ごらんのような広報紙ができあがりました。編集子も遂次改善してゆく考えですので、お気づきの点は遠慮なく御指摘下さい。

（鈴木一）

おめでた

十一月
二五日　二本田　酒井紀代子
二五日　大石草　芳賀　美幸
二六日　馬場　鈴木　康雄
三〇日　前沼　我妻　利美
三〇日　越虫　藤田　敏男

十二月
一日　鍬木田　穂積ちい子
二日　大石草　芳賀　啓子
三日　内ケ竜　宗田　勇郎
一〇日　大石草　生田目浩美
一一日　大塩　水野　雅彦
一二日　道少田　矢吹　得蔵
二三日　青生野　土手内隆志
二五日　宮代　前田ゆかり
二六日　内ケ竜　宗田　隆幸
二六日　木戸沢　鈴木　温子
二七日　小名沢　玉木ゆかり
二八日　遠ケ竜　森　祐紀子

おくやみ

十二月
五日　上　高坂百登吉　87
九日　越虫　星　ミツ　91
一一日　沼野沢　本郷　文子　1
一八日　赤柴　箭内　義勝　0
二〇日　二反田　鷲野谷イツ　76
三〇日　辺栗　生田目喜昭　30